

## 村長の日記

---

4月1日（土）

### 新年度初日

今日は非常に日程が立て込んでいる。

10時~11時 大阪広域水道企業団、四條畷、太子、千早赤阪水道センター開所記念式典。

10時 国道26号線 第二阪和国道開通式典

12時30分 道の駅みさき 竣工式

16時 診療所開所式

私は水道センター開所式へ。

四條畷、太子、千早赤阪 3市町村の水道が今日から水道企業団へ移管。3市町村長が集まり、各市町村の水道センター開所式。

竹山企業長に3首長がよろしくと挨拶をするとともに、各センター長に辞令を手渡して約1時間で終了。これからは村の水道は企業団の運営となり、村の手を離れる。長期にわたり村は水道の運営に苦勞してきたが、少子高齢化の影響による水使用量のダウンがつづく。府域1水道に加盟することにより、長期安定して、安心安全な水が供給される。

### 16:00

#### 村営診療所の指定管理引き継ぎ式（天王寺都ホテル）

岬町から帰ってきた副村長と共に、議会議員の皆さん、区長会の皆さんにも参加いただいて開式。

引き継ぎ式終了後、地域医療振興協会のご厚意により、披露パーティが行われた。

今年3月までは やすらぎ会・植田診療所の皆さんに村立診療所の運営をお任せしていた。新年度からは、地域医療振興協会 JADECOM(自治医大 OBの会)に指定管理をお願いすることになり、川妻先生(大阪府出身)が診療していただくことになった。

先生は外科もこなせる。地域医療振興協会は奈良県で沢山の医療施設を運営し、何か事あるときは奈良県の拠点から応援を受けられる。

# 村長の日記

---

4月3日（月）

## 平成29年度の始まり

村は既に4月1日から、

- ・ 水道企業団への村営水道事業移管
- ・ 社会保険診療所指定管理移管

で、動きは始めている。

年初のお願い。

かなり大規模の人事異動も終わり、村は新しい体制で新年度が始まります。箕面市、河内長野市、りそな銀行 へ各1人出向して頂いた。河内長野市、箕面市から各1人来て頂いた。これはパフォーマンスではない。大阪でただ1つの村、村だから仕方がないに甘えるのではなく、一流の村造り“過疎からの脱却”へのスタートと捉えてほしい。村は2度の合併破綻から立ち上がった、今度の目標は過疎からの脱却だ。ハードルは高い、スキルアップ、パワーアップ、イノベーションが必要。

村当面の課題

- ・ 庁舎の建て替え
- ・ 少子化による学校園の適正化
- ・ 既存施設の改修、保全、除却。
- ・ 過疎、高齢化、人口減少対策。
- ・ 国保料の値上げ
- ・ 小吹台入り口自動車解体施設、千早悪臭問題解決。
- ・ 民間譲渡も含むロープウェイ営業力強化
- ・ 診療所の運営強化
- ・ 中学校校舎の老朽化。
- ・ 村内道路インフラ充実

正に課題山積。

23日には村議選で議員構成が大きく変わり、半数以上が新人となる。従来の対応では議会対策が出来ない。

4月4日（火）

## 自衛隊信太山駐屯地司令 来庁

3月に、村の新人職員が体験入隊させていただいた、信太山駐屯地司令が迷彩服で現れた。

## 村長の日記

---

若い、非常に元気。話をしていると、自衛隊の士気の高さがわかる。彼は48歳、ゴラン高原派遣部隊、幹部学校2年、陸上幕僚総監部教育訓練部幹部高級課程を経て、今年の3月信太山駐屯地司令になったところ。地元の市町村を挨拶に回っている。

何しろ元気が良い。私より30歳若いのだから当たり前だが、職業軍人、気合が入っている。

日本近隣諸国、近海の状況が不透明な現在、自衛隊だけが頼りだ。国の守りを願った。

4月6日（木）

### 赤阪小学校入学式

14人の入学式。9時30分少し前に体育館で入学者の名前を見ると、カナを振ってないと読みがわからない名前ばかり。

私たちの同級生女子はすべて「子」がついていた。今日の14人に「子」のついている生徒はいない。

確実に男の子と思える名前は4人だ。先日命名を頼まれた男の子が3日前に誕生。元気モリモリ、確実に男の子とわかる字になっている。

赤阪小学校は14人の入学生を入れて101名。かなり大きな建物だから、200人は欲しい所。少子化のスピードを早く止めたい。

14人の子ども達、しっかりした子供たちだ。早く育てて千早赤阪を元気にしてほしい。

**14:00**

### 中学校入学式

今年は38名の入学、3月に27人卒業したので全校で10人増えた。クラスは19人のクラスが2つになった。卒業生は1クラスだったので生徒が増えてよくなった気はするが、出生数が減少しているので一時的なものだ。

中学校はここ数年校歌斉唱を聞いているが、力強くすばらしい。

4月7日（金）

### ござせ幼稚園入園式

今年の入園児数は、3歳児3名、5歳児1名。来賓数は入園児の3倍。今年村内の3歳児は17名、そのうち3名が入園。この傾向が続けば幼稚園保育園を一元化した“こども園”を作らざるを得なくなる。入園児4名の入園式だったが子供は元気に歩き回り、式に参加した人たちに微笑みを振りまいていた。

## 村長の日記

---

この子供たちが3年後、小学校に入学してくる。“教育の力”の言葉通り、子供たちは小学生になればかなりしっかりしてくる。入学式、入園式をはしごすると、幼、小、中と子ども達の進歩がわかる。

4月11日（火）

**10:00**

### 更谷慈禧十津川村長選挙出陣式

十津川村村営温泉施設「昴の里」前の広場、山と川ばかりの十津川村には沢山の温泉施設がある、この谷あいこんな広い場所があるのかと思えるほどの場所に、大きな駐車場と野外ステージがある。きつい雨の荒天下、非常に寒い中で始まった。

奈良県の首長選挙では必ず新井知事が参加し、スピーチするが、十津川村の選挙でも例にもれず、知事がトップで挨拶。奈良県の北の端から南の端まで、わざわざ来るのが大変だと思っていたら、昨夜 ホテル昴 に宿泊したらしい。

奈良県の市町村長、衆議院議員、参議院議員、区長の挨拶のあと、私も紹介いただき「更谷村長をよろしく」と参会者をお願いした。出発式の後、彼は5日間、約2000キロも走行する選挙戦に出発していった。

4月14日（金）

### 北川イッセイ前参議院議員 旭日重光章授章記念祝賀会（ホテルニューオオタニ）

北川イッセイ先生は私より2つ若い。参議院議員初当選は平成16年7月、私が村長に当選させていただいた時とほぼ同じときの当選、2期12年、参議院議員を務めていただいた。昨年 松川るい さんにバトンタッチされている。

会場には500人を超える招待客、府民に慕われた先生の人柄がしのばれる。また、先生の真面目な参議院生活集大成「どこへ行く日本」を1冊頂いた。先生は参議院在職中、年に数回「どこへ行く日本」と題して講演会を開き、時事問題を取り上げ解説いただいた。私も何回か先生の講演会に参加し、丁寧な、しかもわかりやすい話を聞き、先生の政治に対する真剣な態度に感じ入った。

先生が初代防衛大臣政務官の時、府の町村長会全員で市ヶ谷の防衛省を訪問し、日本の防衛について自衛隊幹部より話を聞いた。村には先生、秘書さん、共に親身になってお世話頂いた。

旭日重光章受章、おめでとうございます。

# 村長の日記

---

4月17日（月）

## 朝

島本町町長選挙は32歳の山田町長が当選。11日出陣式に参加した十津川村長選挙は、2位候補にダブルスコアで現職更谷さんが当選した。昨日告示の田辺市市長選挙は、現職の真砂市長が対立候補が無く当選となった。真砂さんは中辺路町長から町村合併で田辺市が出来た時の選挙に勝利し、現在に至る。私が初めて村議会議員に当選し中辺路町を訪問したとき、一人だけ非常に若い議員だった彼と出会って以来だから、30年近い付き合い。田辺市長は和歌山でも非常すばらしい市長と言われている。何度となく村の問題解決を助けてもらっている。

明日、村議会議員の選挙が始まる。現職3人、新人6人、かなり混戦、厳しい選挙だ。

## 水道企業団首長会議

朝9時出発で、水道企業団議会議員の定員を決める会議。現在、企業団議会の定数は33人。本来の30人に加え、企業団に参加する四條畷、太子、千早赤阪より1人ずつ議員配分されて33人となっている。平成31年4月1日に7市町が企業団に統合された後はダウンサイジングされ、議員定数は30人に戻る。

4月18日（火）

## 千早赤阪村村議会議員選挙始まる

朝9時には既にポスター貼りが始まった。選挙カーが走り始めた。天候が非常に良い、まさに選挙日和だ。立候補者は9名、現職は小吹台の田中候補、山形候補、関口候補、新人は東阪の千福候補、森屋の藤浦候補、水分の田村候補、森屋北の徳丸候補、川野辺の西谷候補、公明の井上候補。この9名が7議席を争う激戦、私の経験からすると落選は非常に辛い、必ず2人は落選する。全員に頑張れコールを送りたい。火曜日から土曜日までの5日間、悔いのない戦いを望む。

**21:45**

## ラジオ大阪

湊川神社宮司の垣田さん、河内長野市長、私、がマイクの前に着座して放送開始。

キャスターの久本氏より「楠公の誕生地でしかも100日間落城しなかった千早城のある千早赤阪村の村長に、楠公さんへの思いを。」と

## 村長の日記

---

指名された。

河内は奈良時代から奈良、大和への物流の拠点だった。大阪”浪速”からの荷物は大和川を上ってくるが”亀の瀬”の急流で河内から大和への遡上が不可能なため、石川の岸の津(現在の富田林市喜志の近く)から竹之内街道、平石峠経由で物資を運送していた。

楠公は河内大和の物流をすべて手中に収めていた関係で、完全な情報網を持っていた。千早城に攻めてきた関東軍は徹底的に兵站線を痛めつけられ、十分な戦闘力を発揮することが出来なかった。

村も楠公の故事にならい、人・物の流れを加速するとともに、情報を十二分に利用することにより村の発展につなげたい。

4月21日(金)

村議会選挙の真っ最中だが、あいにくの雨。選挙日和が続いたが、雨降って地固まる、各候補最後の追い込みにかかっている。

### 午前

京都へ。第2京阪経由で京都伏見にある木材破砕施設(チップ工場)見学。大阪産業廃棄物協会会長の紹介。

第2京阪を使うと京都は非常に近くなった。早く着きすぎたので、京都が本場の”王将”でランチをとった。さすが本拠地の京都、店も大きく駐車場も広い。料理は量も十分で味も良い。王将はつぶれないはず、社長が不幸に会ってしまったが会社は発展している。このあたりは工場が多らしく、労働者相手の吉野家、すき屋、丸亀製麺、安い大きな店が軒を並べている。

社長の文さんに工場のすべてを見せていただいた。年商3億円、設備は1億円強、「内容その他すべてを教えてあげる」と約束していただいた。設備から営業まで、時間を掛けて教えてもらうことにして京都を辞した。

### 15:00

村帰着。選挙戦はますます熱を帯びている。2~3事務所をお邪魔した、沢山の人達が集まり盛り上がっている。明日は最終日、皆さんにはあと少しの時間、悔いのない戦いをしてほしい。

今回の選挙から採用した移動期日前投票所の投票は、19日(水)20日(木)21日(金)12か所で男性84名、女性169人。投票所に行く手段の無い高齢の女性に人気があった。

## 村長の日記

---

4月23日（日）

### 村議会議員選挙

#### 9:00

選挙管理委員会委員長とともに投票所回り。

くすのきホール、千早小吹台小学校、旧千早小学校、千早老人憩いの家の順番で回った。くすのきホールでは問題なしだったが、残りの投票所はかなり寒い。朝7時に投票所をオープンする、特に今日は朝冷えがきつく、投票所の担当者は寒くて大変だったらしい。夜8時に投票は締め切り、夕方からの暖房は十分にするように。

今回は期日前投票に出張投票を行った結果、期日前投票が増えたが、全体の投票結果は前回の村議会議員選挙と比較すると1%プラス。天候は良かったが思ったより増えなかった。

夜9時より開票開始。開票所のくすのきホールへ行くと、隣町の武田町長が既に開票所に、応接室で開票を待つ。

午後10時、開票結果は

1. 田村陽	新人、無所属	669 票
2. 千福清英	新人、無所属	511 票
3. 藤浦稔	新人、無所属	503 票
4. 井上浩一	新人、公明党	400 票
5. 関口はずみ	現職、共産党	330 票
6. 田中博治	現職、無所属	302 票
7. 山形研介	現職、無所属	248 票
以上当選		
8. 徳丸はつみ	新人、共産党	242 票
9. 西谷武司	新人、無所属	128 票

上記の通り、現職3人、新人4人の当選となり、若い田村君がトップとなった。彼のおかげで議員の平均年齢は少し下がった。新しい議員の皆さんと共に、超一流の村造り、過疎からの脱却を目指そう。

# 村長の日記

---

4月24日（月）

## 課長マニフェスト

今年から各課に課長マニフェストを作り、マニフェストに則り、事業を時間目標通り運営していただくことになった。昨年までは予算を付けた事業が出来ず、予算を残すことが多々あった。事業予算に事業進行が伴わない。今年からマニフェストに時間を示すことで、遅れの無い事業進行を望む。

**15:00**

## 区長会

新しい区長会では4人が新しい区長になった。

千早・辻脇福太郎、上東阪・清井浩、吉年・尾谷誠基、小吹台・岡田莫の4氏が変わった。また区長の内2名が新しい議員となった。東阪の千福清英さん、森屋の藤浦稔さん。ぜひ私たち村の行政をバックアップしてほしい。

終了後、懇親会。区長の皆さんと共に親睦を深めた。住民と行政をつないで頂く区長、自治会長さん。地域と行政をつなぐ太いパイプになってほしい。

4月25日（火）

**10:00**

## 楠公祭

楠公史跡保存会と大阪府神社庁共催。今年は特に産経新聞が楠公さんにスポットを当ててくれているので、少し元気が出る。

楠公さんの事を皆さんに教えていただくと、なぜ千早城の攻城戦で負けなかったのか、おぼろげながら理解できるようになって来た。

### \* 味方内部の結束

辞書によると、結束＝共通の目的を持った者が団結する事。

味方内部の結束は終焉の地 湊川でもわかる通り、生死を共にするほどまでに結束が出来ていた。

### \* 情報の共有

楠公は高野街道、大和川、石川を利用し、竹之内街道、平石峠を使い奈良大和間と大阪の物流を統括していた。外部からの情報はすぐ



## 村長の日記

---

に各城郭軍に伝えられた。

\* 兵站の充実

兵站＝兵器食料など管理補給に当たる機関

物流を握っていた楠公にとって兵站は得意中の得意、熊野古道の中辺路あたりからも兵糧を得ていた。また、幕府軍の兵糧妨害はお手の物だった。

\* 地域住民の協力

楠公は平時地域住民に優しく接するとともに地域産業の振興に力をつくし、河内木綿、凍り豆腐など近世まで彼の起こした産業が地域に残っていた。

幕府軍は大軍の為兵站の補給がままならず、略奪などが行われ、地域住民の協力は無かった。千早城攻城戦は金剛山一帯を有機的に利用した楠公軍の粘り強い持久戦で幕府の崩壊を早めた。

楠公祭終了後、

### 大阪府国民健康保険直営診療協議会の総会

大阪府下では能勢、豊能、柏原、千早赤阪が会員。今年は村が会長当番となっており、28年度事業報告、決算報告、29年度事業計画、予算を審議、可決。15分で終了。

### 新大阪 16時発の新幹線で東京へ

18時30分東京着夕食後すぐに寝る。

4月26日（水）

### 経済農林委員会

2年間の切り替え時期になっており、今年の6月総会で委員会の組換えとなっている。高知県の会長が変わり、中土佐町の池田さんが副会長となった。

**13:00**

### 政務調査会

## 村長の日記

---

林野庁より森林環境税の説明。

既に森林環境税推進協議会が発足して 20 年を過ぎたが、やっと実現への筋道が見えてきた。我が国の森林は平成 6~7 年あたりから木材価格が著しく下落、山林経営が業として成り立たなくなって久しい。全国的に戦後復興で伐採後、雑木林に大量に杉・桧の植林がおこなわれ、60 年生~70 年生の伐採期に入っている山林がほとんどだが、間伐などの手入れが行われている山林が無く、放置森林となっている。森林環境税を導入し山林の間伐を大々的に行い、日本の山をすばらしい山にする原資とする税だ。治山が完成すれば治水も出来上がる。早く森林環境税導入を。

### 17:30

大型バスで羽田空港へ移動。空港で夕食後 19 時 30 分、ANA299 便で鳥取へ移動、21 時ホテル着。

4 月 27 日 (木)

### 小林町長率いる若桜町の見学

所在地は鳥取県の東の端、スキーで有名な氷ノ山のある町、兵庫県の温泉町の西側。人口は 3,400 人、千早赤阪村より 2000 人少ない。予算規模は 39 億円、村より 8 億円多い。財政力指数 0.128 ちなみに村は 0.36

若桜町のイチ押し事業

- \* 保育料の無料化
- \* 高校生の通学補助(月額 7 千円の助成)
- \* 子育て応援給付金(月額 3 万円の助成)
- \* 高速バスのドロップイン(乗車料金の 2 分の 1 助成)
- \* 林業の再生
- \* 頑張る地域ブランド(エゴマとコメの生産者育成強化)
- \* ジビエの活用 (わかさ 29 工房)
- \* 若桜学園(小中一貫校)

若桜町の林業再生に向けた取り組み。

若桜町は林業の町。森林面積は 19,000ha 町域の 95%(村の 7 倍)。若桜町産材は皇居豊明殿の天井板に利用されたほどの良い木材を産出していたが、木材価格の低迷により林業の再生を図っている。

- \* 若狭木材協同組合 (H4 設立)

目的：立木価格の低迷、町内産原木の県外流出ストップ、点在している製材工場集約と大型施設による低コスト製材により原木市場の

## 村長の日記

---

競争力を高め、町産材の産地作りを目指す。

会員：町内製材工場 5 社。

\* 若桜素材生産共同体（H20 設立）

町産材を地元製材所を通じて消費者へ。低コスト化等により森林所有者へ利益還元を図る。

地域材の積極的利用を通じ、地域の森林を育み、環境保全に取り組む。

会員：町内の素材生産業者 4 社、製材所 2 社、森林組合、林家、工務店。

事業：町産材は、原則町内製材所へ全量供給、B 級、C 級材以外は入荷製材所で製材。

町内産材をすべて町内で効率的に製品化することにより、林業のトータル収益をすべて町内へ取り込み、林業再生を目指す。

若桜町の間伐、造林助成

造林事業補助金：町単上乘せ(造林事業の 95%)

間伐搬出支援(県補助金 2800 円、1 立米、プラス町単嵩上げ 1000 円 1 立米)

間伐など森林整備が進むに伴い、隣地残材、製材端材なぞの木質バイオマス資源が増加。バイオマス総合利用計画により木材をすべて町内で処理することにより、木材を収益が出る産業化を目指している。

### 若桜町の農業

高齢化と、後継者不足、小区画農地が多く集積ができない。しかし米はきれいな水と空気により、おいしいコメの生産地としてタニタ食堂、全日空国際線で利用され、ブランド化されつつある。また地域の特産としてエゴマの生産に取り組み農業の新しい展開を模索している。

有害鳥獣対策：若桜町も村と同じくシカ、イノシシの害が多い。

平成 28 年の捕獲数は、シカ 700 頭、イノシシ 180 頭。町ではジビエ活用施設として わかさ 29 工房 を設置、指定管理者に運営を委託している。

受け入れ実績は

平成 28 年 若桜町：シカ 270 頭、イノシシ 5 頭 八頭町：シカ 1420 頭、イノシシ 150 頭

解体処理されたジビエの取引先

県内のレストラン 18 社、県外のレストラン 関東圏 37 社、関西圏 8 社。

## 村長の日記

---

観光資源としてはスキー場として関西圏でおなじみの氷ノ山がある。村と同じように片田舎ではあるが、小林町長以下、町おこしに取り組んでいる姿は素晴らしい。

住民の皆さんも待ちの姿勢ではなく、積極的に町の動きの同調し、町作りに協力しているのが良くわかった。